

敗血症治療

一刻を争う現場での疑問に答える

Contents

序	真弓俊彦	3
資料：SSCG2012と日本版敗血症診療ガイドラインの対比	真弓俊彦	7
執筆者一覧		16

第1章 病態・診断

1. この人、敗血症？ Does this patient have sepsis ?	柴崎俊一, 山中克郎	20
2. 敗血症の病態は？	城戸貴志	26
3. 敗血症の診断はどのように行うのか？	高本紘尚, 岩田充永	33
4. 敗血症診断マーカーはどのように使用するのか？ エンドトキシン, プロカルシトニン, プレセプシンなど	鈴木 泰, 高橋 学, 松本尚也, 遠藤重厚	37
5. 重症敗血症, 敗血症性ショックとは？ 診断基準の変遷とその予後	小豆畑丈夫	43
6. グラム染色, 血液培養はどのように行い, 利用できるのか？	大野博司	47

第2章 治療① - 輸液, カテコラミン, 輸血

1. 輸液はどのように行うべきか？ そのモニタリング, 指標をどのように使い分けるか？	伊佐泰樹, 蒲地正幸	54
2. 大量輸液は是か非か？ SSCG通りに輸液を行うのか？	森澤健一郎, 平 泰彦	61
3. カテコラミンはどのように使用するか？	長田圭司, 蒲地正幸	66
4. アルブミン製剤と赤血球輸血の役割とは？ いつ, どのように使用するか？	佐藤仁思, 福岡敏雄	71

第3章

治療② - 感染症に対する治療

1. 抗菌薬はどのように選択し、どのように投与するか？
投与経路、1回投与量、投与回数 矢野晴美 84
2. 抗菌薬の併用は重要なのか？ **Pro/Con** 谷崎隆太郎, 大曲貴夫 90
3. 感染源のコントロールはどのように行うのか？ 竹末芳生 94
4. 感染源や起因菌が特定できない場合にはどうしたらよいのか？ 鈴木富雄 99
5. 抗菌薬を使用していても、検査結果や症状が改善しない場合はどうするか？
血液データや画像検査で改善が認められない場合、高熱が下がらない場合 山岸由佳, 三鴨廣繁 108
6. de-escalation は、真に遂行可能か？
予後を改善するか？ 抗菌薬の投与期間はどうか？ 志馬伸朗 114
7. 院内感染予防のために選択的消化管除菌（SDD）は行うべきか？ **Pro/Con**
..... 鈴木 淳, 長谷川隆一 120
8. 敗血症で免疫グロブリンを使用すべきか？ より有効な投与方法は？ **Pro/Con**
..... 大坪広樹 125

第4章

治療③ - 臓器サポート

1. 敗血症性ショックでステロイドは必要か？ **Pro/Con** 上田剛士 132
2. 敗血症患者の栄養療法は？
いつから、どのルートでどの栄養剤を投与する？ **Pro/Con** 海塚安郎 142
3. 敗血症における人工呼吸管理のポイントは？ 長岡由姫, 中根正樹 150
4. 敗血症時の鎮静や鎮痛、筋弛緩は
どのように行うのか？ 藤田 基, 鶴田良介 157
5. 血糖コントロールは意味があるのか？
血糖変動は敗血症の予後を示唆するか？ **Pro/Con** 江木盛時 162

第5章

意見の分かれる治療

1. SSCGと日本版敗血症診療ガイドラインの違いは？
..... 真弓俊彦, 遠藤武尊, 染谷一貴, 大坪広樹, 高間辰雄, 城戸貴志, 亀崎文彦 168
2. 敗血症における体温異常—発熱があれば解熱すべきか？ **Pro/Con** 久志本成樹 172
3. この患者は敗血症性DICか？ DICの診断は意味があるのか？ 岡本好司 182
4. 敗血症性DICの治療はどうすればよいのか？
治療によって予後の改善が得られるか？ また、いつまで治療を行うのか？ **Pro/Con**
..... 真弓俊彦, 金澤綾子, 染谷一貴, 大坪広樹, 高間辰雄, 城戸貴志, 亀崎文彦 192

5. 敗血症でタンパク分解酵素阻害薬， エラスターゼ阻害薬は必要か？ **Pro/Con** 安達朋宏， 安田英人 198
6. 敗血症でCRRT は必要か？ **Pro/Con** 小林秀嗣， 内野滋彦 204
7. 敗血症性ショックにおける重炭酸塩投与の意義とは？ **Pro/Con** 北村浩一， 鈴木利彦， 藤谷茂樹 209
8. 敗血症性ショックでPMX は必要か？ 齋藤伸行， 杉山和宏 215

第6章

予防策， リハビリテーション， ゴール

1. 敗血症での深部静脈血栓症予防はどのように行うのか？ **Pro/Con** 松尾耕一， 讃井将満 222
2. 消化管潰瘍予防薬はどのように使用するか？
経腸栄養中も使用するのか？ **Pro/Con** 吉江範親， 橋本篤徳， 小谷穰治 228
3. 敗血症患者でのリハビリテーションは必要か？ 畠山淳司， 武居哲洋 232
4. どのような目標で， どこまでの治療を行うべきか？～Goal of Care～
..... 真弓俊彦， 金澤綾子， 染谷一貴， 大坪広樹， 高間辰雄， 城戸貴志， 亀崎文彦 238
- 索引 242

■ 本文中の文献一覧の★はエビデンスレベルを表しています

◆ 文献

必読

- 1) The Acute Respiratory Distress Syndrome compared with traditional tidal volumes for acute lung injury. Engl J Med. 342 : 1301-1308, 2000 ★★★★★
- 2) Esteban A, et al : Prospective randomized volume-controlled ventilation in ARDS. For 117 : 1690-1696, 2000 ★★
- 3) Eichacker PQ, et al : Meta-analysis of acute lung injury and acute respiratory distress syndrome trials testing low tidal volumes. Am J Respir Crit Care Med. 166 : 1510-1514, 2002
- 4) Hogue DN, et al : Tidal volume reduction in patients with acute lung injury when plateau pressure

★★★★ : 大規模（概ねワンアーム 100 症例以上）の RCT（LRCT）
★★★ : 上記以外の RCT
★ : 大規模（概ね 200 症例以上）の観察研究（LOS）

Color Atlas

● 術中写真

S 状結腸穿孔の状態，
腹腔内に便汁を認める
(p.182 図1 参照)

